

ばら祭りに歴史について

4年ぶりに5月28日、29日バラ祭りが開催されました。
今回のテーマは **I LOVE 福山！ ～ローズマインドを世界中に届けよう！～**
天気にも恵まれて活気のある大変良い祭りだったと思います。

今年で56回目を迎えたバラ祭りですが、
どの様にしてばらの町福山と言われるようになり、
祭りが発展してきたのか知らない方が多いのではないのでしょうか？

戦災、復興、そして今・・・
福山市は戦時中、空襲で市街地の多くを失いました。



1945年8月8日夜の福山大空襲

広島市への原爆投下からわずか2日後の空襲で、長崎への原爆投下1日前の出来事です。
戦火は市街地の80%を焼き尽くし多くの尊い命が失われたそうです！

ちなみに実家もその戦火から逃れることはできなかったと聞いています。
※空襲の9日後には、終戦を迎えましたが、
その時人々の希望は失われかけたのではないかと思います。
生きるのが精いっぱいだったろうと思います、そこで荒廃した街に潤いを取り戻そうと
市民と行政が協力して現在のばら公園に千本を植えました、
終戦から11年目の事です！！



何故ばらだったのでしょうか？

光南町の中村金二さんが1949年横浜で行われた貿易博覧会で
西洋のばらに感動し、自宅の庭園に30本の苗を植え中村ばら園を完成させ
福山に来られた国内外のお客さんをもてなす迎賓館的役割を果たしたそうです。

今では、ローズガーデン光南町として2棟のマンションになり片鱗は名前だけになり
残念ながら、そのばら園をは存在しません。

金二さんは、福山市から土地区画整理委員会委員長を委託され戦後復興に尽力された方で、
公園の整理等にも携わりましたし、金二が植えた30本が福山にバラ愛好家を増やす
きっかけとなり、現在の「ばらの町福山」と言われるようにまでなったそうです。

やがて、

1956年には47名の愛好家により福山ばら会が結成され

第1回ばら展示会が開催されます

⇒現在のばらばら祭りの前身です(ばら祭りは、市民が始めた祭りなのです)

翌1957年には福山市主催による第1回福山バラ展示会を現在のバラ公園にて開催

ここから「ばらの町福山」が歩み始めます

そしていよいよ、

1968年には日独共催になりこれを機にばら祭りと改め

第1回として、ばら祭りが開催されました

当時は、デパートの展示を始め、公園での茶会、琴の演奏会等が行われました。

そして**1971年**には「福山祭委員会」が設立され現在の様なにぎやかな祭りへと発展しました。

2010年には100万本のバラを目指した活動を本格化し、**2016年**には目標を達成しています。

ばらのまちづくりは、平和への願いとともに、今日まで営々と受け継がれています。

最後に、ロシアによるウクライナ侵攻が終わり一刻も早く平和な世界になることを願います

また、追加情報としまして、世界バラ会議が再来年福山市で開催されますので紹介します

世界バラ会議世界大会は、世界バラ会連合が、3年に1度開催する、ばらに関する国際会議です。大会には、ばらの研究家、生産者、愛好家、芸術家など、世界のばら関係者約600～700人が一堂に会し、ばらについてのそれぞれの課題解決、世界のばら愛好家の交流、情報交換の場として機能しています。

戦後60年以上に及ぶばらのまちづくりや“ローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)”(Rose Mind)を大切に育んできた取組が認められ、第20回となる節目の大会を福山市で開催することが決定しました。

世界バラ会議イメージ

ばらをテーマに多くの人が集まるこの大会を契機に、まちや人々にもたらされる効果を大会開催後もレガシー(未来への有形・無形の遺産)として残していくために取組の基本方針を策定しました。世界各国からお迎えする皆様に満足していただくとともに、市民の皆様にとっても郷土への愛着と誇りを感じられるような大会をめざしています。

WFRS 20th World Rose Convention 2025 in FUKUYAMA

第20回世界バラ会議福山大会 2025

開催期間

2025年(令和7年) 5月18日(日)～24日(土)



第20回
世界バラ会議
福山大会
2025

WFRS 20th
WORLD ROSE CONVENTION
2025 in FUKUYAMA

Roses for the Future
～福山からはじまる、新しい未来～

平和を願う市民による1,000本のばらの植栽から始まった、思いやり・優しさ・助け合いの心“ローズマインド”を持続可能な社会の実現に向けた取組として全国へ、世界へ、そして次世代へと継承します。